

平成 28 年度（2016 年度）  
事業計画書

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

## 目 次

はじめに.....	1
1. 環境認識.....	1
2. 基本方針.....	1
3. 事業別基本方針.....	2
I. 競技会事業（公益目的事業 1）.....	5
【平成 28 年度の計画概要】.....	5
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）.....	6
2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）.....	8
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）.....	8
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）.....	9
II. 普及事業（公益目的事業 2）.....	10
【平成 28 年度の計画概要】.....	10
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）.....	11
2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）.....	13
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）.....	14
4. 広報（公益目的事業 2.4）.....	16
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）.....	17
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）.....	18
【平成 28 年度の計画概要】.....	18
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）.....	19
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）.....	19
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）.....	21
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）.....	21
IV. 公益事業共通.....	22
V. 収益事業等.....	23
【平成 28 年度の計画概要】.....	23
1. 公認（収益事業等 1）.....	23
2. 商品販売（収益事業等 2）.....	24
VI. 法人・管理部門.....	25
【平成 28 年度の計画概要】.....	25
1. 会員・会友.....	25
2. 組織運営.....	25
3. 常設委員会.....	25

## はじめに

### 1. 環境認識

当連盟としての中長期的な課題は、以下の3点であると認識している。

第一に、本連盟の使命遂行のため、いかなる環境下にあっても安定した事業運営を行っていきける強固な基盤を構築すること、そのためには、業務執行体制を強化するとともに、収支均衡予算を図り、健全な財務体質を堅持することが肝要である。

平成26年度以降 NEC ブリッジフェスティバルを隔年に開催することになり、開催年ではない前年度は黒字決算となる見込みである。今年度は NEC ブリッジフェスティバルの開催年にあたり、大幅な赤字決算となることが予想されるが、前年度との2年間で収支均衡となるように今年度の事業計画の編成を行った。今後開催される APBF 選手権などの開催資金の調達をする必要があり、その積立も継続して行っていく。

第二に、普及活動をブリッジセンターに定着させ、普及事業の能動的なネットワークを構築することである。

平成24年度以降は、知名度を上げるための広報宣伝活動からブリッジ愛好家になってもらうためのプロモーション活動に重点を移してきたが、この4年間で徐々に成果が出てきており、会員・会友数は順調に増加した。平成28年度も助成制度を維持・発展させ、ブリッジセンターにおけるプロモーション活動を継続的に支援していくことが必要である。

第三に、プレイヤーの高齢化への対応である。

近年日本の高齢化傾向は継続しており、内閣府の「平成27年度版高齢社会白書」によると、2014年（平成26年）10月時点での65歳以上の高齢者が総人口に占める割合（高齢化率）は26.0%（前年25.1%）、2060年には39.9%に拡大すると予想されている。

本連盟のシニア比率（全会友会員に占める、70歳以上を対象とするシニア会員・シニア会友の割合）は、平成10年度の約10%から平成27年度は約44%へと4倍余りに拡大しており、日本社会全体のトレンドを上回るペースで高齢化が進展している。JCBLではセクショナル競技会の参加料を500円割引するシニア割引制度を廃止したが、高齢化傾向は今後も継続すると考えられることから、会員会友の年齢構成を常に配慮しながら、財務構造や競技会関連サービスの定期的な検証や改善に取り組んでいく必要がある。

### 2. 基本方針

以上の状況を踏まえ、本年度は次の3点を基本とした事業活動を行う。

- 本年度の予算編成に関しては、基本的に昨年度と併せた2年度での収支均衡予算を目指す。具体的には、昨年度とほぼ同額の2億3千万円の事業予算を組み、昨年度の黒字幅の範囲で NEC 杯の開催など赤字が見込まれる事業を実施する。
- 引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに、公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って計画的に事業を実施する。競技会事業においては、会員・会友の高齢化に伴う参加者数の減少を防ぐ競技会を検討し、実施を目指す。またディレクターを含めた運営スタッフのレベルの維持向上、ノウハウの継承を行う。普及事業部においては、中期計画に基づいて進めた事業の成果に応じ、それぞれの事業の継

続、修正または中止を決定した後、本年度新規事業の実施計画とともに、本年度からの 3 ヶ年の中期計画を改めて策定し、それに基づいて事業を進める。

- 一昨年度から昨年度にかけて、競技会および普及活動の拠点であるブリッジセンターの閉鎖と新設が相次ぎ、ブリッジセンターも世代交代期を迎えているが、本年度も、ブリッジセンターと協力関係のいっそうの強化を目指す。昨年度行った「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」の改訂や当連盟とブリッジセンター間の会計取引の基準化など、ブリッジセンターとの関係の見直しは継続する。また、体験教室、入門講習会への助成だけでなく、新たな形態のブリッジサロン参加者や初級プレイヤーにも対象を拡げ、さまざまな魅力があふれるプレイ環境を構築していく。

### 3. 事業別基本方針

#### (1) 競技会事業（公益目的事業 1）

- 主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。
- 2015 年以降 NEC ブリッジフェスティバルを隔年開催とし、今年度は 2017 年 2 月に開催する。
- 中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。
- 競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）についてはこれまで JTOS 保守グループを組織して保守および新機能の導入を行ってきたが、今後は競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。
- ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。隔年に実施しているナショナルディレクター養成プログラムは本年度は実施しない。

#### (2) 普及事業（公益目的事業 2）

- 平成 25 年度以降主なターゲットとしてきた 20～30 代及び新たなシニア世代に加えて、40～50 代の新規女性プレイヤーを重視し、新たなイベント企画などで働く女性にとっても魅力ある PR 活動を展開していく。
- 平成 26 年度以降助成対象を拡げてきた初心者競技会は、無償招待キャンペーンを継続して地方からの参加を促進させるとともに、優勝賞品や参加賞を充実させて、さらなる参加者の増加を図る。
- ゲームマーケットへの出展拡大や機内誌へのブリッジクイズ掲載などで興味喚起を継続してきた「パズル、ゲーム、勝負事志向のグループ」に対しては、平成 27 年度に構築した「JCBL ルーム」で実際にカードプレイを体感してもらうだけでなく、入門から簡単な内容までのコンテンツを整備したチュートリアルを制作し、そのサイトに誘導するような仕組みを検討する。
- 「社交、学び、自己実現志向のグループ」に対しては、サロン⇒競技会出場の流れにならずにサロンで滞留する「社交、大人の遊びのグループ」を新たなグループとして捉え、

サロンプレイヤーとして継続するよう支援のありかたを検討する。一方の「学び、自己実現志向のグループ」に対しては、競技会出場へのハードルを下げるような制度を検討し、可能なものから実施していく。

- 参加者が固定しつつあるプレイヤーズサロンは、お客さま満足度を向上させるべく、『プレイヤー第一』を前面に掲げ、楽しく学べる場、気楽に遊べる場であることを積極的にアピールし、口コミや人の繋がりでの活用で参加者拡大を図っていく。
- 首都圏における普及活動は、入門講習会のための新たなカリキュラムや普及用スタンダードシステムについて、多くの人が選びたくなるような、わかりやすく使い勝手の良いものを制作し無償提供していく。
- 大阪、名古屋における普及活動は、平成 27 年度大阪大学で新たに開講したブリッジ授業を中心に学生層や若い世代を受け入れる場の提供や運営について、ブリッジクラブ、ブリッジセンターだけでなく、カルチャースクールとも協力しながら検討を進めていく。
- その他の地方における普及は、必ずしも入門講習会にこだわらず、少人数でもサロン形式のプレイ場所を拡充していくよう、新たな運営形態への助成についても検討する。
- フレンドリーな雰囲気を楽しめる競技会を開催するために、入門者や初心者だけでなく、幅広い層を対象に、ブリッジのマナー向上やルールの浸透を図っていく。

### (3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

- 本年度は、日本国内での国際競技会は開催しないが、ブリッジの普及発展とブリッジを通じた国際交流に努めるとともに、国際競技会運営ノウハウの集積と技術向上をめざす。
- 2018 年にジャカルタ（インドネシア）で開催されるアジア競技大会においてブリッジ種目が採用された。今後 JOC の認定団体となるよう働きかけを行い、インドネシアコントラクトブリッジ協会とともに、APBF 加盟国・地域の NBO、特に地域内の有力国・地域である中国、チャイニーズ・タイペイ、韓国との連携を強化し、マインドスポーツとしてのブリッジの普及・発展に努める。
- 2020 年東京オリンピック・パラリンピックにあわせて日本でのマインドスポーツの世界大会開催を目標に関係団体と協議を行い、実現に向けて活動を進めてゆく。

### (4) 収益事業等

#### ① 公認事業（収益事業 1）

- 公認事業関連業務の見直しを行い、システム化、効率化を図り、公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連盟双方の事業基盤が強化されるような態勢の実施をめざす。

#### ② 商品販売事業（収益事業 2）

- 在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

### (5) 法人・管理部門

- 平成 27 年度に続いて本年度も「新入会無料キャンペーン」を継続する。平成 26, 27 年度の無料キャンペーンで入会した会友の継続状況を調査して、退会者減少のための方策を検討する。一方、未来への財産として、これまでの活動を整理し記録を保管し

ていく事業を継続する。

- 事務局業務の改善に引き続き取り組み、業務の効率化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。
- 進展する高齢化社会に対応可能な事業基盤の構築をめざす。

## I. 競技会事業（公益目的事業 1）

## 【平成 28 年度の計画概要】

## (1) 計画概要

本事業は、当連盟自らが質の高い各種ブリッジ競技会を開催することはもとより、ブリッジセンター／クラブまたは個人が開催するものも含め競技会全般の質を維持し、よりよい競技機会を広く提供することを目的とする。この目的に照らして、(1) 競技会の主催、(2) 競技会運営環境の整備、(3) ディレクターの養成の 3 事業を行う。

主催競技会の回数と内容を見直し、本年度は昨年度に引き続き移管したリジョナル 5 競技会のブリッジセンター主催を継続する。

これまで 20 回にわたり毎年開催していた NEC ブリッジフェスティバルは、平成 27 年 2 月の開催以降隔年開催とし、今年度は平成 29 年 2 月に開催する。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	51,020,000	40,955,000	10,065,000	
経常費用	90,163,010	61,392,450	28,770,560	
経常増減	-39,143,010	-20,437,450	-18,705,560	

## (3)事業別総括表

事業名	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
1.1 競技会の主催	経常収益	51,020,000	40,955,000	10,065,000	
	経常費用	68,096,460	39,843,500	28,252,960	
	経常増減	-17,076,460	1,111,500	-18,187,960	
1.2 競技会運営環境の整備	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,722,800	1,755,200	-32,400	
	経常増減	-1,722,800	-1,755,200	32,400	
1.3 ディレクターの養成	経常収益	0	0	0	
	経常費用	270,000	563,000	-293,000	
	経常増減	-270,000	-563,000	293,000	
1.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	20,073,750	19,230,750	843,000	
	経常増減	-20,073,750	-19,230,750	-843,000	

## 【事業別計画】

## 1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

## (1) 計画概要

## ① 主催競技会（詳細は次ページ表を参照）

- ナショナル及びリジョナル競技会、日本リーグ、社会人 IMP リーグを開催する。
- リジョナル競技会のセンター移管の追加は、今年度は行わない。移管した 5 競技会については、高い運営レベルを維持するよう支援・監督する。
- 地方からの参加者に対する交通費・宿泊費助成、前年度優勝者招待を継続する。

## ② NEC ブリッジフェスティバル

- 平成 29 年 2 月に NEC ブリッジフェスティバルを開催する。
- 海外から 8 チーム、国内から 3 チームを招待する。
- パシフィコシリーズ上位 12 名及び地方在住の上位 4 名までを飛鳥杯（名称未定）に招待する。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	51,020,000	40,955,000	10,065,000	
経常費用	68,096,460	39,843,500	28,252,960	
経常増減	-17,076,460	1,111,500	-18,187,960	

## (3)事業別総括表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
(1)主催競技会	拡大	経常収益	38,700,000	38,735,000	-35,000	
		経常費用	41,096,700	37,653,500	3,443,200	
		経常増減	-2,396,700	1,081,500	-3,478,200	
(2)NEC ブリッジフェスティバル	拡大	経常収益	12,320,000	2,220,000	10,100,000	2015 年 2 月以降隔年開催
		経常費用	26,999,760	2,190,000	24,809,760	
		経常増減	-14,679,760	30,000	-14,709,760	2016 年度は 2017 年 2 月に開催



## JCBL 主催競技会開催予定表

競技会名	日 程	開催日数	場 所	予定卓数
1) ナショナル競技会(全国大会)				
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 16、17 日	2 日	玉川高島屋 S・C/ 四谷 BC	90
全日本地域対抗戦選手権 (関東予選)	5 月 7、8、14、15 日	4 日	四谷 BC	86
全日本地域対抗戦選手権 (決勝)	7 月 23、24 日	2 日	グランドホテル 浜松	38
藤山杯 (予選・決勝)	7 月 23、24 日	2 日	四谷 BC	90
外務大臣杯 (予選・決勝)	8 月 20、21 日	2 日	四谷 BC	60
高松宮記念杯	9 月 17、18、19、 24、25 日	5 日	四谷 BC / 五反田 BS	100
全日本女子ペア選手権 (予選・決勝)	10 月 22、23 日	2 日	玉川高島屋 S・C/ 四谷 BC	90
高松宮妃記念杯 (予選・決勝)	11 月 5、6 日	2 日	四谷 BC	78
NISSAN ブルーリボン杯	12 月 23 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	96
エンゼル・レッドリボン杯	12 月 23 日	1 日	高田馬場 BC/ 大阪 BC	44
朝日新聞社杯	1 月 7、8、9 日	3 日	四谷 BC/五反田 BS /高田馬場 BC/渋谷 BC	150
2) 日本リーグ				
1 部	前期：4 月・7 月、 後期：12 月・1 月	各 4 日	四谷 BC	16
2 部		各 4 日	四谷 BC	24
3) リジショナル競技会				
柳谷杯	4 月 2、3 日	2 日	四谷 BC/五反田 BS/高田馬場 BC	122
サントリー杯	4 月 29 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	92
井上杯 (予選・決勝)	5 月 28、29 日	2 日	四谷 BC	46
井上歌子杯	5 月 29 日	1 日	四谷 BC	32
渡辺杯	3 月 25、26 日	2 日	四谷 BC	46
4) 社会人リーグ				
社会人 IMP リーグ				16

## 2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

## (1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① 競技会運営管理システム
  - 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い、新形式の競技会に対応する。
  - スコア入力システム（ブリッジメイト）の使用方法啓蒙活動、導入支援、貸与を行う。
  - 競技会速報システムを改良し使用を推進する。
- ② 競技会運営環境の整備と維持
  - 競技会の規模に応じた競技会場を確保し、運営設備の維持向上に努める。
- ③ 競技委員会管轄事項
  - 上告審理・裁定、公認コンベンションリストの見直し・改正・公表、ディレクター資格の審議・認定、マスターポイント規則の制定・改正を行う。
- ④ ルール委員会管轄事項
  - デュプリケートブリッジの規則 2017 年版の英語版を入手次第、日本語版の翻訳・作成に着手する。
  - 「デュプリケートブリッジの規則」及び競技会運営に関わる諸規則・規定の解釈・通知・公表、上告委員会裁定へのさらなる上告の審理・裁定を行う。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,722,800	1,755,200	-32,400	
経常増減	-1,722,800	-1,755,200	32,400	

## (3)事業別総括表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
(1)競技会運営システム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,456,800	1,489,200	-32,400	
		経常増減	-1,456,800	-1,489,200	32,400	
(2)競技委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	246,000	246,000	0	
		経常増減	-246,000	-246,000	0	
(3)ルール委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	

## 3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

## (1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① ディレクター講習会

- 例年通り、新人ディレクター育成のための初級ディレクター講習会を、東京で 1 回、地方で 1 回開催する。
  - ほかに、クラブディレクターを対象とする講習会、及びセクショナルディレクターをめざす方を対象とする講習会を各 1 回開催する。
- ② ナショナルディレクター養成プログラム
- 偶数年度である本年度は、ナショナルディレクター養成プログラムは実施せず、ディレクター実習のみ行う。
  - 現役ナショナルディレクターの技能向上のため、認定試験を行う。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	270,000	563,000	-293,000	
経常増減	-270,000	-563,000	293,000	

(2)個別事業一覧  
表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
(1)ディレクター講習会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	70,000	70,000	0	
		経常増減	-70,000	-70,000	0	
(2)ナショナルディレクター養成プログラム	縮小	経常収益	0	0	0	プログラム不実施年
		経常費用	200,000	493,000	-293,000	
		経常増減	-200,000	-493,000	293,000	

#### 4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

##### (1) 計画概要

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	20,073,750	19,230,750	843,000	
経常増減	-20,073,750	-19,230,750	-843,000	

##### (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
管理費 競技会事業部	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,073,750	19,230,750	843,000	
		経常増減	-20,073,750	-19,230,750	-843,000	

## II. 普及事業（公益目的事業 2）

### 【平成 28 年度の計画概要】

#### (1) 計画概要

本事業は、ブリッジのことをよく知らない人々の興味・関心を高め、また、あらゆる年齢層のブリッジに対する理解及び技量の向上を促すことにより、マインドスポーツとして文化・スポーツの両方の側面を有するブリッジの普及を図り、児童・青少年の健全な育成、国民の心身の健全な発達及び豊かな人間性の涵養に寄与することを目的とする。具体的には、(1) 体験イベントの開催、(2) 講習会等の開催、(3) 他の団体等による体験イベント・講習会等の実施支援、(4) ブリッジ普及のための広報及びツールの作成・配布の 4 事業を行う。

従来からの事業に関しては継続することを原則とし、追加コストをあまりかけない範囲で充実・拡大を図る。ただし、計画通りに進捗していない事業に関しては、課題を整理して対応を検討し、手段の見直しや態勢の立て直しを図る。

平成 28 年度の新規事業に関しては、外部コストがかからない検討作業や内製を進めていく。

（平成 28 年度の主な変更点）

- 体験イベントの開催（公益事業 2.1）

平成 28 年度は NEC ブリッジフェスティバルが開催されるため、従来通りの体験イベントも行うが、その広報宣伝活動は縮小する。

関西地区におけるゲームマーケットへの体験教室出展は、テーブル数を拡大する。

初心者競技会は平成 27 年度同様に通常の普及事業とし、優勝賞品や参加賞を充実させて、希望する全国のブリッジセンターに運営を委託して開催する。

ねりんぴっくが長崎で開催されることに合わせて、体験イベントを行う計画を立てる。

ジュニアイベントでは、10 周年キャンペーンとして「シニア・ジュニアくらぶ」を継続し、ジュニア会員の拡大を図る。

- 講習会等の開催（公益事業 2.2）

競技ブリッジを目的とするビディングシステムではなく、わかりやすく使い勝手の良い普及目的のスタンダードシステムを制定し、多くの人が選びたくなるような入門講習会のカリキュラム制作を試みる。

講習会で入門者や初心者にブリッジを愉しむためのマナーを教えるだけでなく、幅広い層を対象に、スムーズな競技運営のためのマナー向上や競技会ルールの浸透を図る。

- 体験教室・講習会等の実施支援（公益事業 2.3）

会員制リゾートホテルやテニスクラブあるいはデパートの外商顧客など、特定メンバーを対象として、講習カリキュラムなし、レベルによるクラス分けなしの「PR サロン」を支援する。

- 広報（公益事業 2.4）

40～50 代の新規女性プレイヤーをメインターゲットとして、体験・入門を随時受け付ける「ソーシャルブリッジクラブ」について、コストを試算し、適用を検討して試行する。

ネット経由の情報を充実させるため新たにチュートリアルを制作し、潜在プレイヤーへのプロモーションを図る。

- 管理（公益事業 2.5）

初年度年会費無料制度を継続し、今後は恒久的な制度にすることを検討する。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備 考
経常収益	794,000	794,000	0	
経常費用	59,033,400	58,707,600	325,800	
経常増減	-58,239,400	-57,913,600	-325,800	

## (3)事業別総括表

事業名	区分	28 予算	27 予算	前年差	備 考
2.1 体験イベント の開催	経常収益	70,000	70,000	0	NECBF 開催
	経常費用	2,190,000	1,920,000	270,000	
	経常増減	-2,120,000	-1,850,000	-270,000	
2.2 講習会等の開 催	経常収益	0	0	0	
	経常費用	2,990,000	2,820,000	170,000	
	経常増減	-2,990,000	-2,820,000	-170,000	
2.3 体験教室・講 習会等の実施支 援	経常収益	0	0	0	
	経常費用	17,590,000	17,910,000	-320,000	
	経常増減	-17,590,000	-17,910,000	320,000	
2.4 広報	経常収益	724,000	724,000	0	掲載誌見直し
	経常費用	7,456,600	8,516,600	-1,060,000	
	経常増減	-6,732,600	-7,792,600	1,060,000	
2.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	28,806,800	27,541,000	1,265,800	
	経常増減	-28,806,800	-27,541,000	-1,265,800	

## 【事業別計画】

## 1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

## (1) 計画概要

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高め  
てもらうための各種体験イベントを実施する。

## ① 文化・教育関連イベント出展

- ・ 国民文化祭（11月愛知開催）
- ・ ねんりんぴっく（10月長崎開催）
- ・ 霞が関子ども見学デー（8月）
- ・ 関西ジュニアペア碁大会（8月）
- ・ ゲームマーケット東京（5月、11月）
- ・ ゲームマーケット関西（3月）
- ・ 他団体が開催する新しいPRイベントに、年1回参加することを目標にする。

## ② 一般向け体験イベント

- ・ 初心者競技会体験大会（年6回開催することを目標にする）

## ③ ジュニア向け体験イベント（ジュニアクラブイベント）

- ・ 体験教室／入門講習会／練習会／競技会（15名の新入会を目標にする）

- シニア・ジュニアくらぶ開催（2センター、各 10 名のシニアに優待券）

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	70,000	70,000	0	
経常費用	2,190,000	1,920,000	270,000	
経常増減	-2,120,000	-1,850,000	-270,000	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
(1)文化・教育関連イベント 国民文化祭	縮小	経常収益	0	0	0	愛知開催
		経常費用	120,000	150,000	-30,000	
		経常増減	-120,000	-150,000	30,000	
(1)文化・教育関連イベント ねんりんびっく	新規	経常収益	0	0	0	長崎開催
		経常費用	160,000	0	160,000	
		経常増減	-160,000	0	-160,000	
(1)文化・教育関連イベント その他のイベント	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	540,000	510,000	30,000	
		経常増減	-540,000	-510,000	-30,000	
(2)一般向け体験イベント NECBF 体験教室	新規	経常収益	0	0	0	NECBF 体験教室開催
		経常費用	130,000	0	130,000	
		経常増減	-130,000	0	-130,000	
(2)一般向け体験イベント 初心者大会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	730,000	730,000	0	
		経常増減	-730,000	-730,000	0	
(4)ジュニア向け体験イベント ジュニアくらぶ運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	
(4)ジュニア向け体験イベント ジュニアくらぶ体験イベント	前年度並み	経常収益	70,000	70,000	0	10 周年キャンペーン
		経常費用	490,000	510,000	-20,000	
		経常増減	-420,000	-440,000	20,000	

## 2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）

## (1) 計画概要

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会を開催する。

## ① インストラクター講習会

- ・ 公認資格制度導入の前段として、ブリッジに限定しない一般的なスキルアップのためのインストラクター講習会を年 1 回開催する。

## ② ユース向け講習会

- ・ 「ユース育成プロジェクト」の一環としての技術向上支援を行う。（通年）  
（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）

## ③ プレイヤーズサロンの拡充

- ・ 遊びながら上達することを目指すプレイヤーズサロンは、毎月 1 回常設されている 3 センターに加えて、ロコミや人の繋がり活用の活用で参加者拡大を図り、新たに 1 センターもしくは 1 開催増加させることを目標にする。

## ④ 入門講習会のカリキュラム制作

- ・ List-A、B、C に準拠した普及目的のスタンダードシステムを制定する。
- ・ 必ずしも競技ブリッジを目的としない入門講習会のカリキュラム制作を試みる。

## ⑤ マナー向上や競技会ルールの浸透

- ・ 講習会で入門者や初心者にブリッジを愉しむためのマナーを教えるだけでなく、幅広い層を対象に、スムーズな競技運営のためのマナー向上や競技会ルールの浸透を図る。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	2,990,000	2,820,000	170,000	
経常増減	-2,990,000	-2,820,000	-170,000	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
(1)ブリッジインストラクター講習会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	500,000	500,000	0	
		経常増減	-500,000	-500,000	0	
(2)ユース向け講習会 ユース育成 PJ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,950,000	1,670,000	280,000	
		経常増減	-1,950,000	-1,670,000	-280,000	
(5)プレイヤーズサロン	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	540,000	650,000	-110,000	
		経常増減	-540,000	-650,000	110,000	

### 3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

#### (1) 計画概要

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体等に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供及びノウハウの提供を行う。

#### ① 一般支援

##### • 教室助成

体験教室のうち、PR 型はおもに他団体が開催するイベントに出展するもので、多数の来場者にブリッジを知ってもらうことを目的とする。PM 型はおもに入門講習会に進む前段階としての開催するもので、これからブリッジを始めようと思っている一般の方を対象として、ブリッジとはどういうものかを伝え、興味を持ってもらうことを目的とする。いずれも開催時間や設置テーブル数あるいは受講者人数に応じて、講師及びアシスタント料、交通費等を助成する。要請があれば用具・教材の提供や連盟職員の派遣も行うことがある。

入門講習会は、ブリッジを本格的に習得しようする方を対象に開催するもので、原則として 1 期 12 回以内に限り、受講者人数及び受講料に応じて、不足分の講師及びアシスタント料、交通費等を助成する。

カルチャースクールは、おもに営利団体が開催するもので、講師及びアシスタント料に不足分があれば助成する。

サロン形式実習講習会は、おもに地方クラブなどで入門講習会新規開講時の受講者数が少ないため一斉に開始することができず、その後も新規受講者を随時受け入れる形態のもので、条件に応じて講師及びアシスタント料、交通費等を助成する。

PR サロンは、サロン形式実習講習会と同様の形態であるが、講習会のカリキュラムはなく、おもに来場する一般客に PR して新たな受講生獲得を図ることを目的とする。カルチャースクールに併設する場合は、スクールを終了した受講者にプレイ機会と場所を提供する目的もある。条件に応じて講師及びアシスタント料を助成する。

##### • 体験イベント支援、海外クラブ支援

原則として申請に応じて助成する。

##### • 地方活性化活動（地方クラブ支援）

地方クラブ・センターだけでなく、カルチャースクールとも協力しながら、それぞれが抱える課題に応じた支援を行う。

#### ② 教育現場におけるブリッジ講座支援

• 東京大学では、講師が交代するのに合わせて、これまで培った指導法のさらなる発展を目指す。

• 早稲田大学の授業では、昨年度から担当した講師による指導法を確立させる。

• 明治大学の授業では、教養科目として定着を図り、新たなキャンパスでの開講を検討する。

• 青山学院大学の授業では、平成 27 年度受講生が減少したため、再び拡大を図る。

• 大阪大学の授業では、平成 27 年度に続けて秋学期に授業を行う。

• 新たな大学での授業開講を模索する。

#### ③ 学校・学生支援

• 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立ち上げ、用具提供）

• 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人への PR 活動推進支援（費用支給）

• 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成



(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	17,590,000	17,910,000	-320,000	
経常増減	-17,590,000	-17,910,000	320,000	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
(1)普及活動支援 助成規定・海外ク ラブ支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	PRサロン助成(新規)
		経常費用	11,280,000	11,310,000	-30,000	
		経常増減	-11,280,000	-11,310,000	30,000	
(1)普及活動支援 地方活性化支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	570,000	580,000	-10,000	
		経常増減	-570,000	-580,000	10,000	
(2) 学校講座支 援 教師派遣・ 授業拡大	休止・中止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	460,000	-460,000	
		経常増減	0	-460,000	460,000	
(2) 学校講座支 援 大学講座① 東京大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:浅井潔
		経常費用	800,000	840,000	-40,000	
		経常増減	-800,000	-840,000	40,000	
(2) 学校講座支 援 大学講座② 早稲田大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:並木亮
		経常費用	1,480,000	1,550,000	-70,000	
		経常増減	-1,480,000	-1,550,000	70,000	
(2) 学校講座支 援 大学講座⑥ 大阪大学	新規	経常収益	0	0	0	講師:大橋正幸
		経常費用	460,000	0	460,000	
		経常増減	-460,000	0	-460,000	
(2) 学校講座支 援 大学講座④ 青山学院大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:島村京子
		経常費用	1,160,000	1,300,000	-140,000	
		経常増減	-1,160,000	-1,300,000	140,000	
(2) 学校講座支 援 大学講座⑤ 明治大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:清水映樹
		経常費用	630,000	700,000	-70,000	
		経常増減	-630,000	-700,000	70,000	
(3)学校・学生の 普及活動支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	規模拡大
		経常費用	1,210,000	1,170,000	40,000	
		経常増減	-1,210,000	-1,170,000	-40,000	

## 4. 広報（公益目的事業 2.4）

## (1) 計画概要

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行う。

- ・ メディア広告など JCBL すべての事業を広く世間にアピールするための PR 活動（随時）
- ・ 地域イベント参加やブリッジ図書寄贈など特定ターゲットを対象にした PR 活動（随時）
- ・ 体験教室や入門講習会の受講者の来場を促進するためのプロモーション活動（随時）
- ・ 広報ツール・パンフレットなどの企画・開発（随時）
- ・ 普及・会員サービスに活用可能なプロモーショングッズの製作または購入（随時）

## ① 広報宣伝 PR 活動

- ・ 機内誌にパズル問題を毎号出稿し、ウェブサイトにて解答・解説を掲載する。
- ・ 「普及通信」ウェブ版を隔月更新する。
- ・ 体験教室、入門講習会開催告知のための全国一斉広告を年 2 回実施する。
- ・ 記録ビデオを DVD 化して JCBL ライブラリー化し、会員・会友に貸し出し可能な仕組みを構築する。
- ・ 入門レベルのチュートリアルビデオを制作し、ウェブサイトにて公開する。その後、遊び方を紹介したビデオやチュートリアルをシリーズ化してネット（YouTube 等の動画投稿サイト）にて公開することを検討していく。

## ② プロモーション活動

- ・ 気軽にできる無料ウェブ検定（級位認定試験）をウェブサイトにて公開する。
- ・ ネットゲーム環境として BBO に開設した JCBL 専用ルームを充実させる。
- ・ 全国のブリッジセンター・ブリッジクラブと一体になったプロモーション制度の設計や年数回程度しか競技会に出場しない会員・会友を対象にした活性化キャンペーンを展開する計画は、1 センターをモデルケースとして運用可能な方法を検討していく。
- ・ 働く 40～50 代の女性をメインターゲットとして、平日夜間にブリッジイベントを企画し、定期開催することで「ソーシャルブリッジクラブ」の設立を目指す。
- ・ 入門者や初心者だけでなく幅広い層を対象として、ブリッジのマナー向上やルールの浸透を図るための小冊子を作成し、簡単な講習会を開催する。

## ③ 出版物の刊行

- ・ 普及用スタンダードシステムに準拠した入門レベル教材を制作する。
- ・ ブリッジをテーマにした小説を制作し、出版する。

## ④ ウェブサイト運営

- ・ 助成に関するディレクトリを見直し、わかりやすく見やすい構成に変更する。

## ⑤ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配付

- ・ 普及のための広報ツールやプロモーショングッズを必要に応じて製作または購入する。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	724,000	724,000	0	
経常費用	7,456,600	8,516,600	-1,060,000	
経常増減	-6,732,600	-7,792,600	1,060,000	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
(1)広報宣伝活動	縮小	経常収益	724,000	724,000	0	掲載誌見直し
		経常費用	6,964,000	7,724,000	-760,000	
		経常増減	-6,240,000	-7,000,000	760,000	
(2)出版 入門コース教材 作成	休止・中止	経常収益	0	0	0	原稿料削減
		経常費用	0	300,000	-300,000	
		経常増減	0	-300,000	300,000	
(3)ウェブサイト JCBL ウェブサイト の運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	268,000	268,000	0	
		経常増減	-268,000	-268,000	0	
(3)ウェブサイト 普及通信の編集 発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	24,600	24,600	0	
		経常増減	-24,600	-24,600	0	
(4) 広報ツールの 作成・配付	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	200,000	200,000	0	
		経常増減	-200,000	-200,000	0	

## 5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

## (1) 計画概要

- 普及ネットの運営
- 普及に関わる JCBL 公認資格制度確立のための制度設計
- ブリッジインストラクター登録管理と登録証発行（3月）

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	28,806,800	27,541,000	1,265,800	
経常増減	-28,806,800	-27,541,000	-1,265,800	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
普及ネットプロジ ェクト	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	40,000	40,000	0	
		経常増減	-40,000	-40,000	0	
管理費 普及事業部	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	28,766,800	27,501,000	1,265,800	
		経常増減	-28,766,800	-27,501,000	-1,265,800	

### III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

#### 【平成 28 年度の計画概要】

##### (1) 計画概要

ブリッジは世界に多くの競技人口を有していることから、ブリッジを通じた国際交流を図ることは、国際親善・国際相互理解促進にとって有意義である。このため、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の3事業を行う。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	654,000	612,000	42,000	
経常費用	23,158,725	21,667,300	1,491,425	
経常増減	-22,504,725	-21,055,300	-1,449,425	

##### (3)事業別総括表

事業名	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
3.1 国際競技会の主催	経常収益	114,000	72,000	42,000	国際競技会開催予定なし
	経常費用	0	0	0	
	経常増減	114,000	72,000	42,000	
3.2 国際競技会への参加費用助成	経常収益	540,000	540,000	0	
	経常費用	17,458,000	15,945,500	1,512,500	
	経常増減	-16,918,000	-15,405,500	-1,512,500	
3.3 国際的競技団体との交流	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,193,125	1,154,800	38,325	
	経常増減	-1,193,125	-1,154,800	-38,325	
3.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	4,507,600	4,567,000	-59,400	
	経常増減	-4,507,600	-4,567,000	59,400	

## 【事業別計画】

## 1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

## (1) 計画概要

今年度は日本国内で国際大会は開催しない。

平成 32 年（2020 年）のオリンピック・パラリンピック東京大会に合わせ、日本でのマインドスポーツの国際大会開催を目標に開催資金の積立を行う。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	114,000	72,000	42,000	
経常費用	0	0	0	
経常増減	114,000	72,000	42,000	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
(1)APBF 選手権/ コンGRESS		経常収益	114,000	72,000	42,000	国際大会開催準備金
		経常費用	0	0	0	受取利息のみ計上
		経常増減	114,000	72,000	42,000	

## 2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

## (1) 計画概要

## ① 日本代表選抜

- 日本代表選抜試合を開催し、平成 29 年開催の第 51 回 APBF 選手権に派遣するオープン、ウィメン、シニア各 1 チームの日本代表を選抜する。遠隔地からの参加者には、交通費と宿泊費を助成する。
- 代表チームの国内競技会参加費及び練習会の費用を助成する。
- 第 15 回ワールドブリッジゲームズ、ミクストチーム部門の日本代表選抜試合を開催する。

## ② 国際競技会派遣

- 第 15 回ワールドブリッジゲームズ  
9 月 3 日から 9 月 17 日にヴロツワフ（ポーランド）で開催される第 15 回ワールドブリッジゲームズにオープン、ウィメン、シニア、ミクスト各 1 チームの選手、キャプテンの派遣を行う。
- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給する。

## ③ 国際競技会派遣（ユース）

本年度は以下の競技会への参加を支援する。

- APBF コンGRESS（グレードⅡ）
- 世界ユースチーム選手権（グレードⅠ）
- 世界大学選手権（グレードⅢ）

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	540,000	540,000	0	
経常費用	17,458,000	15,945,500	1,512,500	
経常増減	-16,918,000	-15,405,500	-1,512,500	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
(1)日本代表選抜	前年度並み	経常収益	540,000	540,000	0	
		経常費用	1,492,000	1,352,000	140,000	
		経常増減	-952,000	-812,000	-140,000	
(2)国際競技会派遣 APBF 選手権/アジアカップ	休止・中止	経常収益	0	0	0	APBF コンgress開催
		経常費用	0	2,846,400	-2,846,400	年につき、助成は行わ
		経常増減	0	-2,846,400	2,846,400	ない
(2)国際競技会派遣 世界選手権	拡大	経常収益	0	0	0	ワールドブリッジゲーム
		経常費用	10,488,000	6,786,000	3,702,000	ズに代表派遣
		経常増減	-10,488,000	-6,786,000	-3,702,000	
(2)国際競技会派遣 その他	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	300,000	300,000	0	
		経常増減	-300,000	-300,000	0	
(2)国際競技会派遣 日本代表ユニフォーム	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	540,000	420,000	120,000	
		経常増減	-540,000	-420,000	-120,000	
(3)ユース育成プログラム APBF コンgress派遣	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,616,200	1,676,200	-60,000	
		経常増減	-1,616,200	-1,676,200	60,000	
(3)ユース育成プログラム 世界選手権派遣	新規	経常収益	0	0	0	ジュニア(U26)部門に
		経常費用	2,030,000	0	2,030,000	代表を派遣
		経常増減	-2,030,000	0	-2,030,000	
(3)ユース育成プログラム 世界ユースコンgress /大学選手権	休止・中止	経常収益	0	0	0	世界大学選手権開催
		経常費用	0	1,964,900	-1,964,900	(その他国際競技会
		経常増減	0	-1,964,900	1,964,900	参加支援から助成予定)
(3)ユース育成プログラム その他国際競技会参加支援	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	991,800	600,000	391,800	
		経常増減	-991,800	-600,000	-391,800	

## 3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

## (1) 計画概要

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施する。

- ① 世界同時大会への参加
  - ・平成 28 年 6 月 3～4 日に開催される世界同時大会開催に参加協力する。
- ② APBF 同時大会への参加
  - ・平成 28 年 11 月～平成 29 年 4 月まで開催が予定されている APBF 同時大会開催に参加協力する。
- ③ 海外競技会に参加する会員・会友の支援と海外への情報提供・収集
  - ・ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催予定情報を提供する。
  - ・APBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
  - ・WBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
- ④ JCBL ウェブサイトの活用
 

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員に提供する。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,193,125	1,154,800	38,325	
経常増減	-1,193,125	-1,154,800	-38,325	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
国際的競技団体との交流	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,193,125	1,154,800	38,325	
		経常増減	-1,193,125	-1,154,800	-38,325	

## 4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

## (1) 計画概要

国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	4,507,600	4,567,000	-59,400	
経常増減	-4,507,600	-4,567,000	59,400	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
管理費 国際交流事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	4,507,600	4,567,000	-59,400	
		経常増減	-4,507,600	-4,567,000	59,400	

## IV. 公益事業共通

### 【平成 28 年度の計画概要】

#### (1) 計画概要

基本財産運用益及び会費収入の 50%を公益事業及び法人会計にそれぞれ繰り入れ、公益事業活動の原資とする。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	16,981,650	17,663,150	-681,500	
経常費用	0	0	0	
経常増減	16,981,650	17,663,150	-681,500	

#### (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
公益事業共通		経常収益	16,981,650	17,663,150	-681,500	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	16,981,650	17,663,150	-681,500	



## V. 収益事業等

### 【平成 28 年度の計画概要】

#### (1) 計画概要

公認事業は競技会事業部が、販売事業は事務局が担当する。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備 考
経常収益	150,848,480	148,369,920	2,478,560	
経常費用	39,988,780	39,871,980	116,800	
経常増減	110,859,700	108,497,940	2,361,760	

#### (3)事業別総括表

事業名	区分	28 予算	27 予算	前年差	備 考
1 公認	経常収益	130,748,480	128,269,920	2,478,560	
	経常費用	21,650,780	21,492,980	157,800	
	経常増減	109,097,700	106,776,940	2,320,760	
2 商品販売	経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
	経常費用	18,338,000	18,379,000	-41,000	
	経常増減	1,762,000	1,721,000	41,000	

### 【事業別計画】

#### 1. 公認（収益事業等 1）

##### (1) 計画概要

「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」に定める条件を満たしブリッジの普及に努める団体を、公認クラブ及び公認ブリッジセンターとして承認し、その活動を支援するとともに、同規則その他当連盟の定める諸ルールに基づいてこれらの団体が開催する競技会を公認競技会として承認する。公認競技会における各競技者の成績は、公式な成績としてマスターポイントを発行し、記録・管理する。

公認事業関連業務の見直しを行い、システム化と効率化を図る。

「センター協議委員会」を中心に公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターとの協議を継続し、公認料制度の見直しを含め、ブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方を検討していく。

#### 収益事業等 1.1 競技会の公認

##### ① クラブ・センター主催競技会の公認

- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲームを公認する。
- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、IMP リーグの公認料率は参加料の 22%を継続する。ブリッジセンターについては平成 28 年度の普及活動実施状況により、平成 29 年度の公認料率を決定する。
- ・ ユースプレイヤーに対する競技会参加料割引を実施する。

##### ② マスターポイントの認定・管理

- ・ マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行う。

#### 収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

## ① ブリッジクラブの公認と育成

- ブリッジクラブ及びブリッジセンターを公認する。
- 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努める。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行う。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置及びバリアフリー工事支援事業を行う。

## ② 競技会開催支援

- 地方リジョナル開催時のディレクター派遣費用の支援を行う。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	130,748,480	128,269,920	2,478,560	
経常費用	21,650,780	21,492,980	157,800	
経常増減	109,097,700	106,776,940	2,320,760	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
(1)競技会の公認	前年度並み	経常収益	130,748,480	128,269,920	2,478,560	
		経常費用	20,418,780	20,260,980	157,800	
		経常増減	110,329,700	108,008,940	2,320,760	
(2)コントラクトブリッジクラブの公認と育成	前年度並み	経常収益	0	0	0	AED 購入及びバリア
		経常費用	1,232,000	1,232,000	0	フリー工事助成
		経常増減	-1,232,000	-1,232,000	0	地方リジョナル支援

## 2. 商品販売（収益事業等 2）

## (1) 計画概要

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の販売を行う。在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
経常費用	18,338,000	18,379,000	-41,000	
経常増減	1,762,000	1,721,000	41,000	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
商品販売事業	前年度並み	経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
		経常費用	18,338,000	18,379,000	-41,000	
		経常増減	1,762,000	1,721,000	41,000	

## VI. 法人・管理部門

### 【平成 28 年度の計画概要】

#### (1) 計画概要

#### 1. 会員・会友

##### ① 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行する。今後会報発行の頻度を削減することが可能か検討する。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行、部数：7,700 部

『JCBL HANDBOOK』 毎年 5 月 1 日発行、部数：7,900 部

##### ② JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加えて、欠落していた図書の追加購入を行う。

##### ③ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施する。

入会キャンペーン 前年度に引き続き新規入会者の会費を平成 29 年 3 月まで無料にする「新入会無料キャンペーン」及び、紹介者に QUO カードを進呈する「紹介キャンペーン」を実施する。

ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。各ブリッジセンターで開催されるビギナーズ杯に抽選で招待する。

#### 2. 組織運営

- ・ 事務局業務の改善に引き続き取り組む。組織運営体制及び事務局の人員体制の変更を勘案して、業務の効率化を推進する。
- ・ 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。

#### 3. 常設委員会

##### ① 企画委員会

- ・ 企画委員会は、毎年度の予算及び事業計画の策定のほか、10 年後の連盟及び会員・会友のあり方を想定して事業部ごとの中期計画を策定することと、連盟のさまざまな制度の見直しと改革を使命とする。
- ・ 今年度も連盟の中長期的な財政基盤の充実と、現在のブリッジの競技環境の維持が最大の課題となる。とりわけ、競技会参加者の増加に資する施策の提案と、可能な限り早期の実施が求められる。
- ・ 昨年度着手した「記録保管制度」の検討については、今年度中の導入を目指してブリッジセンターとの環境整備などを進める。

##### ② センター協議委員会

- ・ センター協議委員会は、競技会と普及活動の拠点であるブリッジセンターと当連盟との協力関係の構築を使命とする。
- ・ 体験教室や入門教室などへの助成制度について、ブリッジセンターからの要望を反映させた見直しを行う。

- 競技会において顕在化しつつある「対応の難しいプレイヤー」について、対応のガイドラインを策定して、プレイ環境の維持と改善を図る。

(2)収支総括	28 予算	27 予算	前年差	備考
経常収益	17,336,650	18,304,150	-967,500	
経常費用	42,724,500	41,185,900	1,538,600	
経常増減	-25,387,850	-22,881,750	-2,506,100	

## (3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	28 予算	27 予算	前年差	備考
1. 会員・会友 (1)刊行物の発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,558,000	3,558,000	0	
		経常増減	-3,558,000	-3,558,000	0	
1. 会員・会友 (2)JCBL ライブラリー	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	290,000	290,000	0	
		経常増減	-290,000	-290,000	0	
1.会員・会友 (3)キャンペーン	前年度並み	経常収益	0	0	0	初心者大会ペア招待費用のうち通常の普及活動分は公 2.1.2 で計上
		経常費用	280,500	280,500	0	
		経常増減	-280,500	-280,500	0	
2.組織運営 (1)管理部	拡大	経常収益	17,336,650	18,304,150	-967,500	
		経常費用	38,596,000	37,057,400	1,538,600	
		経常増減	-21,259,350	-18,753,250	-2,506,100	